

2025年3月3日

日本貨物鉄道株式会社

芙蓉総合リース株式会社

鉄道用31フィートコンテナの導入について

日本貨物鉄道株式会社（東京都渋谷区、代表取締役社長兼社長執行役員：犬飼 新、以下「JR貨物」）と芙蓉総合リース株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：織田 寛明、以下「芙蓉リース」）は、新たに増備する鉄道用31フィートコンテナに関するリース契約を締結し、同コンテナの使用を開始しました。

記

1. 背景・目的

31フィートコンテナは10トントラックとほぼ同等の積載容量を持つことから、輸送単位や荷役作業を変更することなくトラック輸送からスムーズに鉄道へのモーダルシフトを実現でき、お客様からのご要望が強いコンテナです。

この度、JR貨物、芙蓉リースおよび利用運送事業者で構成された協議会の事業が、国土交通省の「モーダルシフト加速化緊急対策事業」の認定を受けたことから、当該補助金を活用し31フィートコンテナを新製しました。

これにより、新規のお客様や片道のみでの輸送需要等に、より対応しやすい体制を整えます。片道輸送の場合は、求貨求車システムを運営する3PL事業者と協業し回送コンテナの積荷化を図るスキームづくりを進めており、より多くのお客様に31フィートコンテナを効率的にご利用いただけるよう取り組んでまいります。

2. 概要

- | | |
|--------------|-------------------------------------|
| (1) 製作個数 | 60個 |
| (2) 使用開始時期 | 2025年2月以降、順次運用開始 |
| (3) 使用（運用）区間 | 東海道・山陽・鹿児島線、東北・函館線をはじめとした
全国主要駅間 |

3. 主な仕様・特徴

- | | |
|---------|--|
| (1) 形式 | 49A形式 |
| (2) 容積 | 48.6 m ³ |
| (3) 寸法 | (外寸) 長さ 9,410mm、幅 2,490mm、高さ 2,605mm
(内寸) 長さ 9,249mm、幅 2,350mm、高さ 2,237mm |
| (4) その他 | コンテナの妻側、および両側面が開くウィングタイプです。妻側一方開き |

と異なり、コンテナの両サイドからフォークリフトで荷物を簡単に積み込むことができ、荷役の場所を選ばないという利点があります。



◆日本貨物鉄道の取り組み

日本貨物鉄道株式会社は、全国に広がる鉄道ネットワークを生かした貨物鉄道輸送を行っています。貨物鉄道は一度に大量の物資を運べ、優れた環境特性を有した輸送モードであり、特に中長距離輸送においてその特性を発揮し、近年、深刻化する労働力不足問題の解決にも貢献できます。今後も鉄道を基軸に、お客様にとって最適な物流ソリューションをワンストップで提供する総合物流事業を推進していきます。

◆芙蓉総合リースの取り組み

芙蓉リースグループは、2022年度からスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」において、CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実践を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現により、企業グループとして持続的な成長を目指しております。また、「モビリティ物流」を経営資源を集中投下する成長ドライバーのひとつに位置付け、幅広いパートナー企業と連携し、人手不足、コスト増など「物流の2024年問題」を抱える物流業界のトータルサポートを推進することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

以上